



# 風のこころ

主任司祭 中村 満



発行所  
カトリック福江教会  
広報委員会  
五島市末広町 3-6  
TEL 0959 (72) 3957  
●ホームページ●  
<http://fukuechurch.jimdo.com>

をすべて思い出させてくださる」(14・26)と語り、聖霊が神の言葉や救いの計画を成就させるために働いてくださると伝えられた。

パウロはガラテヤ人への手紙で、「『霊』の結ぶ実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です」と述べ、聖霊によって生かされるキリスト者の生き方を示している。

御父だけでなく、御子だけでもなく、聖霊も私たちと共におられ、神の愛と命と赦しに与らせてくださるのです。聖霊の風に背を押されながら歩いて行きたいものだ。

## 聖体「こうふく」式

助任司祭 稲田 祐馬



井持浦教会での永久聖体礼拝を終えてこの原稿を書いていきます(原稿メ切り日)。永久聖体礼拝は各小教区が持ち回りで担当し、福江教会は八月二一日(日)だそうです。永久聖体礼拝では、聖体賛美式が行われるわけですが、かつては聖体こうふく式と呼ばれていました。いまでも時折聞かれるこの呼び名で

風は目に見えないが、風を見ることはできる。そよぐ草木に風を見えなびく木々に強い風を見る。風は見えないが、確かにある。私たちは先日、聖霊降臨を祝ったが、激しい風が吹いて来るような音に例えられた聖霊(使徒言行録2・2)について思いを巡らすのも時節に合っているだろう。

聖霊は神の息として紹介されている。創世記では、神が息を吹きかけられると人は生きる者となった。人は神の息に風を感じ目を開いたのであろう。聖霊は神の息吹であり、命を与える方である。

聖霊は罪から人を清める。イエス様は弟子たちに息を吹きかけ「聖霊を受けなさい。あなたたちが赦せば、だれの罪でも赦され、赦さなければ、

赦されないうまま残る」と語られた(ヨハネ20・22-23)。

聖霊は弁護者、助け主である。聖霊の原語はギリシア語の「パラクレトス」。パラクレトスは、弁護者、忠告者、保護者、助け主と訳すこともできる。聖霊は、側にいて弁護してくれ、忠告してくれ、守り助けてくれると解することができよう。私たちの側にいて手助けしてくれる方が聖霊なのだ。イエス様は「私は父に願って、いつまでもあなたたちといっしょにいてくれる助け主を別に遣わしていただく。その方は真理の霊である」(ヨハネ14・16-17)と紹介している。そして、「父がわたしの名によって遣わす助け主である聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したこと

すが、この聖体こうふく式の「こうふく」にはどのような字があてられているのか、私には長らくの疑問でありました。「降福」かあるいは「降伏」か、まさか「幸福」ではないだろうかと思いつきながら、でもまあ、神学校では聖体賛美式と言ったり、あるいはそこで多くの人は「ベネ(ベネディクション)の略。祝福の意。「今日ベネ?(あるの?)」という風に使われる。」と呼んできましたので、聖体「こうふく」式と聞いたときにうまく漢字に変換できずに、ぼーっと過ごしてまいりました。「ぼーっと生きてんじゃねーよ!(NHK)「ちこちゃんに叱られる!」より引用」ということで、いい機会ですので、降福なのか降伏なのか決着をつけたいと思います。みなさんはどちら派でしょうか、お付き合いください。わたくしの予想としましては、ズルいですけどどっちもあるなあという感じです。「降福」、福が降ってくる、さきほど触れたように、ベネディクションは祝福を意味しますので、ご聖体による祝福、キリストによる祝福ということで、そこに焦点をあてた表現になっている、降福という字はあまり馴染みがありませんが、意味を考えると、あるなあという感じですね。一方「降伏」は、降って来られて伏す、「神の身分でありなが

# 初心を忘れず

助任司祭 西田 祐尚



去る今年の三月  
二一日で司祭叙階  
一年を迎え、四月  
十五日は福江に赴  
任して、一年とな  
りました。司祭に

叙階された頃の思い(初心)、「謙虚  
さを忘れないでおこう」という思い、  
一年を思い返してみると、それを忘  
れていないかと思えます。この一年、  
私の傲慢さによって傷ついた方々、  
本当に申し訳ございません。

さてみなさんは「降福」、「降伏」  
どちら派でしょうか。ちよっと手挙  
げてもらっていいですか(見えない  
けど)。決着をつけるのは、今は亡  
き、生田シスター(純心聖母会)か  
ら譲ってもらった『新カトリック大  
事典』です。さて、事典に載ってい  
る漢字は……聖体「降福」式であ  
りました……!

すつきりしたところで、この文章  
を閉じますが、簡単に説明しておき  
ますと聖体降福式(聖体賛美式)と  
は、聖体顕示、聖体礼拝、聖体によ  
る祝福からなる儀式です。この時に  
しかお目にかかれぬオステンソリ  
ウム(聖体顕示器)も見ものです。  
ぜひ与ってみてください。言わずも  
がなですがもちろんごミサにも。

さて、一年を過ぎて、ふと、自分  
の司祭像というものを思い返してみ  
ました。神学生時代、ことあるごと  
に養成者や神学生たちと「将来、自  
分がなりたい司祭像(どんな司祭に  
なりたいのか)」を聞かれ、神学科  
三年生(祭壇奉仕者)になるまでな  
りたい司祭像が決まっておらず、悩  
んでいた日々を思い出します。そん  
な私が自分なりの司祭像を見つけた  
のは、神学科論文を書いた時でした。  
神学科論文とは神学を学び終える神  
学生たちが、自分の好きな神学の分  
野(聖書、教義、倫理)から、テー  
マを決め、それについて論証したり、  
とある説などを反証したりするもの

です。分野も様々ですので、聖書で  
言えば、ヨハネの黙示録について書  
いたり、倫理ならゆるしの秘跡につ  
いて書く学生もいました。他に、S  
NSを通じた宣教方法について書い  
た学生もいました。そんな中、私が  
選んだテーマが、「癒し」の神学で  
した。イエス様が多くの人たちを癒  
していたあの癒しは、どんな癒し  
だったのか、それを神学的に考察す  
るものでした(どんな論文を書いた  
かについては、いつか説教の時など  
にお話します)。この「癒し」をテー  
マに書く中で、次第にこんな思いが  
こみ上げてきました。「自分は、人  
を癒す司祭になりたい」と。そして、  
それから、その思いは今も変わって  
いません。

「幼子のように、神の国を受け入  
れる者でなければ、決してそこに入  
ることはできない」(マルコ10・15)  
というイエス様の言葉。どこか私た  
ちに、「初心を忘れるな」と、問い  
かけているように感じないでしょ  
うか。「幼子のようにありなさい」、「幼  
子のように、素直に、謙虚であれ」、  
「幼子のように、いつも初々しくあ  
りなさい」、そんなイエス様の言葉  
が聞こえて来ないでしょうか。

今年一年も、初心を忘れず、謙虚さ  
を忘れずに、司祭職に励んで参ります。  
今年も一年間、よろしくお祈りします。

## 各委員会の紹介

みなさん、福江教会の小教区評議  
会の委員会活動を御存じですか？  
今回は教会共同体の活動を支えて  
いる各委員会について紹介いたしま  
す。

### \*信仰教育委員会

●活動内容  
小学生と中学一、  
二年生の教会学校  
や教会行事、侍者  
や聖歌隊のお世話  
をさせていただいています。  
五月、十月のロザリオや黙想会、  
ラジオ体操や初聖体、堅信式など、  
年間を通してたくさん行事があり  
ます。



保護者の方々と神父様、カテキス  
タのシスターたちと協力しながら活  
動しています。

### \*青少年委員会

●活動内容  
中学三年生から高校生の子供た  
ちが、中高生会のメンバーとして  
様々な行事を計画  
し取り組んでいます。  
最近ではコロナ  
の影響で思うよう



な活動が出来ていませんが、朗読奉仕、聖母祭・夜市の出店、クリスマスのお菓子配布などを高校生が中心となって行っています。

**\*青年会**.....

**●活動内容**

教会掲示板のポスター作成、他委員会のお手伝い、チャリティーミニバザー主催など

**●活動して良かったこと、楽しかったこと**

青年会には、ベトナム出身の青年たちや他教区からの転入者もあり、それぞれ来れるときに協力して活動をしています。

ミニバザーや教会行事のお手伝いを通して教会の皆様と交流できるのは私たちにとっても大きな喜びです！今年ももっと様々な活動ができたらいいなと思っています。

いつでもメンバー募集していますので、どうぞお気軽にいらしてください。



昨年開催したミニバザーの様子

**\*福祉委員会**.....

**●活動内容**

クリスマス募金など、各種募金のお世話をしています。

また、施設に入所している方など、教会ミサに与りたい方々の送迎のお世話をしています。(コロナのため残念ながら現在お休みしています)

他に何かお役にたてる事が無いか模索中です。一緒に活動できる人いませんか？

**\*典礼委員会**.....

**●活動内容**

毎朝のミサの先唱、典礼朗読、朗読者の担当割り当てなど、ミサが滞りなく行われるよう活動しています。

毎朝の六時のミサの先唱者、朗読奉仕者は寝坊しないように特に注意しながら朝早くから奉仕して下さっています。

主日のミサの共同祈願 4 は土曜日の夜のミサの先唱者が作っています(かなり苦労しながら...)。

今年の待降節からミサの式次第が少し変更されます。わかり次第お知らせする予定です。

先唱者、朗読奉仕者を募集しています。



ます。緊張しますが、心は満たされますよ。月に一回でも大歓迎です。平日の先唱者、朗読者が少なく困っています。

**\*召命委員会**.....

**●活動内容**

小教区出身聖職者へ「こころ」を送付しています。

**\*生涯養成委員会**.....

2005年4月に発足した委員会です。

**●活動内容**

下五島地区行事のスポーツ交流、祈りの会のお世話、聖書講座の会場作りや参加要請。

長崎大司教区クルシリオ事務局主催のクルシリオなどの参加を通して大人の信仰教育のお世話をしています。

信者の皆様の信仰生活が少しでも豊かになるよう活動していきます。



**\*広報委員会**.....

**●活動内容**

福江教会の広報誌「こころ」を(年4回)発行しています。また、長崎

大司教区の広報誌「カトリック教報」を各地区の班ごとに仕分け作業も行っています。

**広報誌「こころ」**

「こころ」では神父様の寄稿文をはじめ、行事の内容、経過報告を中心に掲載しています。取材を通して教会の歴史や信仰生活について学ぶ機会ともなっています。

「こころ」に掲載してほしい記事やご意見、ご感想など聞かせて下さい。

あわせて、誌面づくりに参加して下さるメンバーも募集しています！

**\*女性部**.....

**●活動内容**

日曜日の二番ミサ後に売店を開けたり、復活祭の玉子の準備や教会の行事などのお手伝いをしたりしています。

**●活動して良かったこと**

コロナで最近はなかなか活動出来ていないですが、今まで関りなかつた人達と話したり、一緒に活動することが出来て、とても良かったです。



# ゴミ拾い活動に参加しました!

四月二日(土)午後一時より、福江修道院 環境グループの主催によるゴミ拾いイベントが開催された。近年、地球温暖化防止やSDGs(持続可能な開発目標)などの取り組みが世界的に呼びかけられている中で、まずは近所の環境に目を向ける良い機会と思い参加した。主催のシスター方に加え、信徒、病院の職員やその家族の方など約三十名が参加して松山地区から大荒町に抜ける道路を歩きながらゴミ拾いを行った。

普段、ゴミの事など気にせず車で通っている道路も、ゆっくり歩きながら眺めてみると多くのゴミが、種類としては空き缶やペットボトルが多く見られた。中には、家電や自

動車のバッテリーなど明らかに投棄されたようなものも見受けられた。想像を超えるゴミの状況に、驚きと共に残念な気持ちも感じながらの約二時間の作業となった。



崖下にたくさんのゴミが捨てられていました。

主催者によると、この日のイベントで集まったゴミは大袋で二九個だったとのこと。また、同様のイベントは今後も行いたいとの事なので、今回参加できなかった方も次の機会に関心を持って頂きたい。一人一人の環境に対する小さな思いを行動に移すきっかけを下さった主催者のシスター方に感謝し、取組みが継続していくことを祈ります。

令和4年度 班長名簿		
地区	班	氏名
番町北	1班	小田 智幸
	2班	赤尾 八生
	3班	赤尾 弥生
	4班	赤宮 末広
	5班	野村 実浩
	6班	馬津 川巖
番町南	1班	永野 光子
	2班	宮崎 猛治
	3班	谷口 陽吉
	4班	越山 喜誠
	5班	真倉 誠門
	6班	岩下 右衛門
	7班	下田 幸彦
	8班	山下 浩
町地区	1班	杉本 桂資
	2班	川村 秀美
	3班	赤尾 弘樹
	4班	浜辺 重雄
	5班	川口 光枝
	6班	本松 和浩
	7班	班入 本一
水主町	1班	峯 重昭
	2班	川端 幸一
	3班	赤尾 輝誠
	4班	原塚 誠一
松山	1班	外輪 津代子
	2班	奈切 晃子
	3班	出口 万里
	4班	濱崎 和明
	5班	岩下 忠文
	6班	笹山 悟
	7班	鍋内 絹代
	8班	中山 孝子

## カテキスタ紹介 2022

今年度のカテキスタのメンバーと担当学年を紹介致します。

今年度もコロナ禍での教会学校となりましたが、神父様や信仰教育委員会の方々と協力し、感染対策を行いながら子どもたちと楽しく、神様のことを学んで行きたいと思えます。

保護者の皆様、信徒の皆様、どうぞ協力とご指導くださいませよ



3年生 Sr. 古木



1年生 Sr. 山崎



5年生 Sr. 永瀬



2年生 Sr. 岩崎

なお、4年生は西田神父様、6年生は稲田神父様が担当いたします。

## 編集後記

広報誌「こころ」第二三三号を発行しました。皆様いかがお過ごしでしょうか?

コロナ禍も三年目となり、公開ミサが断続的に中止となるなど正常な信仰生活とは程遠い状況が続いていました。が、屋外でのマスク着用の緩和など少しずつコロナ後に向かっている部分も感じられます。

また、世界に目を向けるとウクライナへのロシア軍の侵攻により、多くの犠牲

う、よろしくお願いいたします。

者が出ているとの報道が連日聞かれます。一日も早い停戦が待たれます。このような世界共通で関心のある出来事が続いて起こる事も珍しくいかもれません。SNSの普及で様々な情報が溢れている中、情報の真偽に迷うことも少なくありません。偏りなく様々な角度から情報に触れ、よく考えて行動する事が必要だと最近よく感じます。そして、キリスト者としてこの時代をどう生きるべきか...とても難しいですが、日常での何気ない人との関わりを大事にしなければと感じています。

皆さんのお考えも聞かせて下さい。

(N・H)